

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	新型コロナウイルス感染拡大による長期的な面会制限下にある 介護老健保健施設高齢者の心的影響				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	宮澤 典子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・特任教授	氏名	深江 久代
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	成瀬 早苗
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	飯塚 真樹
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	宮澤 典子

講演題目	新型コロナウイルス感染拡大による長期的な面会制限下にある 介護老健保健施設高齢者の心的における長期的な影響に関する文献検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>目的：新型コロナウイルス拡大に伴い重症化率が高い高齢者の施設では家族の面会が制限され、長期的に家族に会えない高齢者が増えている。そのような環境下にある高齢者が抱えている課題を明らかにする。</p> <p>方法：医中誌Web、PubMed、CINAHL with Full Textにて「高齢者 (older people、elderly people)」、「新型コロナウイルス (COVID-19)」、「隔離 (isolation)」、「面会 (visitation)」を検索単語とし、検索期間は2020年1月から2022年2月までの期間とした。国内文献6件、海外文献16件、ハンドリサーチ2件の計24件を分析対象とした。</p> <p>結果：国内の研究では、面会制限による食事摂取量の減少、認知症の悪化、意思決定に関する倫理的課題、そして家族に関する課題が指摘されていた。海外の研究では、面会制限による施設高齢者の孤独感の強まり、生活の質 (Quality Of Life 以下 QOL) の低下が起きていることが報告されていた。また長期的な隔離生活により、身体症状 (不眠、食欲低下、炎症反応の増加) や不安、うつ病の増悪、認知機能の低下、炎症反応の増悪を起こしていることが報告された。また家族と十分な会話確保されず高齢者の意思決定支援に影響がでていることが指摘された。</p> <p>考察：長期的な家族との面会が制限されている環境下にあった高齢者は、心理的負担を抱えるだけでなく、長期間にわたる負担により様々な身体症状を引き起こし、心身の健康レベルが低下していることが考えられる。また家族との会話の減少により高齢者自身の信条に基づく十分な意思決定が行われていない可能性があり、それらを解消する具体的な打開策が求められ、その一つである高齢者施設でのインターネットの普及や ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) の活用が十分に行われていないことが考えられる。</p> <p>今後の展望：日本では、対面面会の代替案として厚生労働省が2020年5月より介護老人福祉施設に対して、オンライン面会 (テレビ電話システムやWebアプリのビデオ通話機能等のインターネットを利用する面会) の推進を積極的に行ってきたが、静岡市の老人保健施設でのオンライン面会普及率は不明であるため、実態調査を今後行っていく必要がある。</p> <p>また COVID-19 への世界的関心の高さから国内論文の多くが英語で発表されている。国連機関の一つである IASC では、長期化する感染状況による高齢者への心的なケアが重要であることを指摘している。パンデミックにより長期的な社会参加機会の減少による影響、そして今後どのようなケアが必要とされるのかを明らかにし、各国と共有していく必要がある。</p>